



様式第6号（議員用）

政務活動実施報告書

平成31年 4月15日

村上市議会議長 様

議員名 小杉和也



私は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

用 務 名	国指定重要無形文化財（佐原の大祭）、重伝健 佐原の町並み 調査
実 施 日 時	平成31年 2月13日（水） 午後 2時～4時 （香取市役所） 平成31年 2月14日（木） 午前 9時15分～12時 （現地）
用 務 先	千葉県香取市
参 加 議 員 名	※同行議員がある場合記入すること。
全 体 参 加 者 数	※同行議員がある場合記入すること。 名
概 要 及 び 所 見	<p>村上市の村上大祭が平成30年1月19日に「村上祭の屋台行事」として国の重要無形民俗文化財指定を受けたことから、平成16年2月6日に「佐原の山車行事」として国の重要無形民俗文化財指定を受けた佐原の大祭の運営および管理状況を聞くために、香取市役所の担当者を訪ねて聞き取りを行い、水郷佐原山車会館および屋台小屋の現状を視察した。</p> <p>香取市佐原は平成8年12月10日に重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に指定され、祭りの似合う風景や、昔の面影を残す町並みを活かしたまちづくりに取り組んでいることから、香取市役所の担当者から聞き取りを行い、小野川沿岸や香取街道の歴史的景観の現状を視察した。</p> <p>国の重要無形民俗文化財指定を受けた地域では、市も実行委員会メンバーになることが多く、実際に香取市の職員が佐原の大祭実行委員会に委員として入り、補助金1535万円が投入されて運営されている。村上市も今後は実行委員会のあり方を巡って、しっかりとした組織になるように検討していく必要性を感じた。</p> <p>文化継承面では、佐原でも少子化の進行により曳き手不足が深刻な問題として顕著化しており、村上市でも何らかの方策を考えないと、将来的に祭りに参加できない町内が出て伝統を守れず活気が失われる可能性がある。佐原祭りの入りこみは指定後でも大幅な変化は見られないが、現地視察において、景観を楽しむ外国人観光客が多かったことから、村上市ではインバウンド対策や外国語表記のサイン（看板等）の整備を進める必要がある。</p>
備 考	

○佐原の大祭に香取市が対応していることは何ですか。交通面、出店対応、広告宣伝、予算。

→市から補助金 1,535 万円を大祭実行委員会に配布をしています。その補助金の範囲内で、交通規制に係る警備員の手配、広場の設置・運営、大祭ポスター・チラシの作成及び交通機関等への掲出や祭り区域付近へのシャトルバスの運行を実施しています。

○佐原の大祭実行委員会の構成メンバーおよび会計について教えてください。

→委員構成は祭り参加町内、市内事業者・団体、NPO、観光協会、商工会議所、市となっています。

会計は実行委員会で行っており、前述した実行委員会が実施している事業の範囲内で会計を処理しています。

○平成 16 年に佐原の大祭が国指定重要無形民俗文化財に指定されましたが、指定以前と指定後の観光客の入りこみ数の変化や経済効果はどうですか。

→劇的な増加はないが漸増傾向にあります。経済効果は詳細には把握しておりませんが、観光客数の増加に伴った波及効果はあるのではないかと予想されます。

○平成 28 年に佐原の大祭がユネスコ無形文化遺産に指定されましたが、指定以前と指定後の観光客の入りこみ数の変化や経済効果はどうですか。

→祭り行事自体への来場者数は増加傾向にあります。

また、水郷佐原山車会館の入館者数についてですが、認定年の翌年は来館者数が増加しましたが、翌々年は例年通りの入館者数に落ち着いている状況です。

○祭りの保存で、山車の修復やお囃子の継承はどのようにされているのですか。

また、山車の保存方法（収納小屋など）はどうされているのですか。

→山車の修復は、山車持ち町内の負担で賄われています。内容によって、市補助金、または国庫補助金の交付を得て行っています。特に国庫補助金の交付に際しては、山車修理の審議会に諮ることが前提となっています。

山車持ち町内は囃子に関わらないという慣習から、お囃子を担当するのは、かつての農村を母体とした囃子方（佐原では「下座（げざ）」と呼んでいます。）と同好会形式の囃子方です。基本的に山車持ち町内と囃子方は自由契約的な関係で成り立っており、数ある囃子方（この地方周辺に 80 団体ほどが活動中）から伝手を得て関係を結んでいるというのが実情です。囃子方は 10 代～70 代の幅広い世代で構成されており、日々の稽古を通して伝承されています。ちなみに、熱心な囃子方は週 1 で稽古を行っています。ただし、同好会形式の囃子方が増えたことから、稽古場の確保が問題となってきています。

→山車は、飾り物や彫刻を取り外した本体を山車蔵に収納して保管しています。飾り物や彫物などはそれぞれ専用の収納箱に入れて同じ山車蔵に保管してる町内もあれば、分散して個人の蔵へ収納している場合もあります。

○祭りの引手不足などの問題はありませんか。

→曳き手不足は深刻な問題として顕在化してきています。平成のはじめに、曳き手不足が戸数の少ない町内では深刻な問題となり、積極的に外部の人を受け入れた組織改革を行うことによって乗り越えてきた歴史があります。しかし、少子化の進行によって、この方式による人数確保も限界に達しているというのが実情ではないでしょうか。現在、町内のみの人員で山車を曳けるのは2～3の町内しかなく、多くの町内は伝手を得て50人ほどの曳き手を確保しています。以前、は20代が曳き手の主力でしたが、今は30代後半となっており、20代は数人しかいないという状況です。

○水郷佐原山車会館の運営、管理、入りこみを教えてください。直営の場合は予算もお願いします。

→山車会館は市の直轄で運営・管理をしています。

入館者数は平成28年度（ユネスコ認定年）は30,456名、平成29年度は34,553名、平成30年度（～1月末迄）は25,112名となっています。

○2月9日から第14回さわら雛めぐりが始まり、主催団体は佐原かみさん会で市は後援をしています。市から何かしらの補助はあるのですか、市はどのような対応をされているのですか。

→補助金を交付し事業支援をしています。また、イベントに係る作業時には職員を派遣したり、機会があれば相互に情報交換等をしています。

○平成8年に重要伝統的建造物群保存地区に指定されたことにより、市の観光への変化はありましたか、現在は観光面でどのように活かしていますか。

→観光客数自体はほぼ横ばいですが、景観を目当てに来市する観光客は一定数います。

また、重伝建地区選定を契機に改めて市民の景観保存の意識は向上したと思います。

近年では成田空港に近接した立地の影響や海外へ向けたプロモーションの効果で外国人観光客も増加傾向にあります。また、景観を活かした古民家レストランや宿泊施設が増えてきています。

	夏祭り	秋祭り	総計
H24	340,000	400,000	740,000
H25	350,000	472,000	822,000
H26	340,000	477,000	817,000
H27	337,000	421,000	758,000
H28	400,000	347,000	747,000
H29	365,000	250,000	615,000
H30	368,000	380,000	748,000

